

製品名: ヒストン 1.0 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12045**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	28kDa

抗原情報

遺伝子名	H1F0
別名	H1F0; H1FV; Histone H1.0; Histone H1'; Histone H1(0)
遺伝子 ID	3005.0
SwissProt ID	P07305
免疫原	抗血清はヒトヒストン 1F0 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 71-120

背景

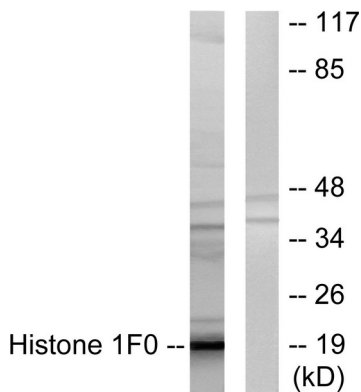
ヒストンは、真核生物の染色体繊維のヌクレオソーム構造を担う基本的な核タンパク質です。ヌクレオソームは、4つのコアヒストン (H2A、H2B、H3、H4) がそれぞれ対になって構成されるヒストン八量体に巻き付いた約 146 bp の DNA で構成されています。ク

ロマチン繊維は、リンカーヒストンである H1 とヌクレオソーム間の DNA との相互作用によってさらに凝縮され、高次のクロマチン構造を形成します。この遺伝子はイントロンを含まず、ヒストン H1 ファミリーに属する複製非依存性ヒストンをコードしています。[RefSeq 提供、2015 年 10 月]、機能: ヒストン H1 は、ヌクレオソーム鎖を高次構造に凝縮するために不可欠です。H1F0 ヒストンは、分化の最終段階にある細胞または細胞分裂速度が低い細胞に見られます。誘導: 編集されていないバージョンと RNA 編集バージョンの両方が酪酸によって誘導されます (タンパク質レベル)。RNA 編集バージョンのみが DTT、ビンブラスチン、または TNF によって誘導されます (タンパク質レベル)。オンライン情報: ヒストン H1 エントリ, PTM: おそらく ATM または ATR による DNA 損傷時にリン酸化されます。RNA 編集バージョンでは Ser-17 がリン酸化されます。RNA 編集: 部分的に編集されます。mRNA 分子の約 3.6% で、5'-UTR への単一のウリジン挿入によって新しい開始メチオニンが生成され、99 個のアミノ酸の N 末端延長が発生します。RNA 編集バージョンの存在は、そのバージョンに固有の次のペプチドの MS/MS による直接タンパク質配列決定によって裏付けられています: 48-67、68-83、84-94、97-113。RNA 編集版は ET-H1.0 と呼ばれる。類似性: ヒストン H1/H5 ファミリーに属する。細胞内局在: RNA 編集版は核スペckルに局在することが報告されている。有糸分裂中は、凝縮した染色体の近傍に現れる。

研究分野

タンパク質アセチル化

画像データ



ヒストン 1F0 抗体を用いた A549 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



ヒストン 1.0 ポリクローナル抗体を 1:2000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。